

極地雪水分科会

9月24日（月）15:00～17:00, B会場

■セッション：観測データが捉えた極域雪氷圏の気候変動

昨年度のセッションでは、極域における国内雪氷研究の潮流と題して、研究を後押しする体制並びに気候システムにおける極域雪氷の役割について紹介した。気候システムは、雪氷圏や大気・海洋循環の変化などを通じて、幅広い時間スケールで変動している。また極域雪氷圏の観測データも蓄積されつつある。そこで今年度は、極域雪氷圏がどのように変動してきているのか、観測データが捉えた変動について、陸と海を含めた極地雪氷圏を対象として紹介する。

■話題提供

(1) 極域観測データによる陸域雪氷の変動

榎本 浩之（極地研）

(2) 近年の南極域に見られる海水変動特性

牛尾 収輝（極地研）

■総会 16:00～17:00

(1) 観測実施報告

• 第53次南極観測夏隊報告

杉山 慎（北大）

• NEEM（グリーンランド氷床掘削）活動報告

平林幹啓・東久美子（極地研）

• 科研費グリーンランド観測報告

青木 輝夫（気象研）

• GRENE 北極観測報告

榎本 浩之（極地研）

(2) 観測計画紹介

• 第54次南極観測・雪氷部門実施計画

本山 秀明（極地研）

• GRENE 北極観測計画

榎本 浩之（極地研）

(3) ワーキンググループ報告

• 南極観測将来計画検討WG報告

本山 秀明（極地研）

• 極地雪氷用語解説WG報告

亀田 貴雄（北見工大）

• 南極観測データマネジメント検討WG報告

藤田 秀二（極地研）

矢吹裕伯（海洋研究開発機構）

• 北極雪氷検討WG報告

杉浦 幸之助（海洋研究開発機構）

(4) 事業報告

• 国際対応幹事報告

植竹 淳（極地研）

• ホームページ対応幹事報告

小嶋 真輔（東洋製作所）

• 会計報告

杉山 慎（北大）

(5) その他

役員改選